

# 音楽科 学習指導案

日 時 平成30年11月8日(木) 6校時  
学 級 3年1組(男子15名女子19名計34名)  
場 所 矢巾北中学校 音楽室  
授業者 山口 浩子

- 1 題材名 「日本の歌～作者の思いと表現の工夫」  
教材名 「夏は来ぬ」

## 2 題材について

### (1) 教材観

本題材では、学習指導要領の内容「A 表現(1)ア、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。イ、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。[共通事項]」のうち、(1)アの音色、旋律、テクスチャ、構成等を扱う。

佐々木信綱作詞・小山作之助作曲の「夏は来ぬ」は、1896年5月、「新編教育歌唱集(第五集)」にて発表され、2006年には、「日本の歌百選」に選出された名曲である。

100年以上もの間愛されて来た日本を代表するこの曲が、新進気鋭の作曲家である三宅悠太氏の編曲によって、新たな命を吹き込まれて教科書に掲載され、現在多くの中学生の愛唱歌となっている。

この曲は、わずか8小節の旋律が5番まで繰り返されていて、歌詞を味わってみると、1番か4番までは、夏を彩る風物詩がそれぞれの場面で盛り込まれ、5番では全てを総括した形で初夏の訪れを喜び一杯に表現している。

三宅悠太氏の言葉(教育芸術社教科書研究編)の中に、「編曲時にはシーンの変化や様子をイメージしながら音を紡ぎました」とあるように、上記のことを踏まえて原曲の美しさや躍動感、期待感をより際立たせるように、それぞれの場面にふさわしいアンサンブルと伴奏形が用いられている。

2番の五月雨の場面では、しとしとした音の質感が女声だけのアンサンブルとピアノパートで表現され、3番の「おこたり諫むる」では、男声の張りのある声で旋律が歌われるように工夫されている。これらのことからわかるように、1番から5番までの曲調の変化を、楽しみながら表現していけるように考え抜かれて編曲されており、中学生が日本の歌に親しみ、さらに3年間の学習で得た力を総動員して表現を工夫する学習としては最もふさわしい楽曲と言える。

また、原曲の旋律が常に際立つように編曲されていることから、シンプルな8小節の旋律の中に初夏を迎える感動があらわれるよう、音楽的に表現していくことができる曲である。

### (2) 生徒観

音楽の授業に対して意欲を持って取り組み、努力できる学級である。苦手意識の強い生徒もいるが、率先して練習を進めていける、音楽的能力の高い生徒も数名いるクラスである。指導者やリーダーの指示を聞き、協力しながら学習を進めることのできる集団であり、グループ学習の形態が効果を上げる学級でもある。

歌う事に抵抗は無く、むしろ意欲的ではあるが、何も考えずただ大きな声を出して朗々と歌うことに喜びを見いだしている生徒が男子に若干名いることから、終止フォルテで演奏してしまうことも度々ある。表現の工夫について学習を進めてきたが、曲種に応じた発声で歌うことや言葉の特性を生かして歌うことへの工夫が不足していたため、身近にある曲をいかに知的に情感溢れる演奏にしていけるかを考えさせる体験を、計画的に盛り込んで来た。

3年時合唱コンクールでは、松下耕氏の「俵積み歌」に挑戦し、民謡のルーツ・曲の成り立ちについて、漆原恵美子先生の指導を仰ぎ、時代背景や曲に込められた思いを感じることで、表現力の幅を広げられるよう学習した。このことも、音楽の学習において大きな財産となった。

義務教育残りわずかの時期を迎え、音楽の学習のまとめとして、多様な音楽の中でも日本の風土や四季折々の美しさ・懐かしさを伴う情景などに着目し、音楽を形作っている要素やその関連を意識しながら生き生きとした音楽表現ができるよう、取り組ませていきたい。

### 3 題材の指導目標及び評価基準

#### (1) 指導目標

- ア 原曲の短くシンプルな旋律から前半・後半の違いを感じ取り、凝縮した感動の表現ができるよう工夫する
- イ 編曲者の意図を感じ取り、それぞれの場面に合わせた曲想の変化に合わせて、音楽を形作る諸要素と、そこから生まれる特質や雰囲気を感じ取りながら、表現を工夫する
- ウ、曲の構成とアンサンブルの仕組みを理解し、それらを生かした音色や音の重なり、ブレスの仕方などを工夫する

#### (2) 単元の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能
①日本の風土や情景、人々の暮らしに密着した音楽の味わいに心を寄せ、それにふさわしい表現を工夫する過程で、意欲的に話し合いや練習に参加することができる。	①原曲の構成や形式を理解し、それを生かした表現を工夫することができる。 ②編曲者の意図や思いと音楽との関わりを理解し、より良い表現を模索することができる。 ③それぞれの歌詞を生かしたアンサンブルの形や、伴奏形が醸し出す曲想の変化を感じ取ることができる。	①原曲の短くシンプルな旋律の中に、感動の表現を盛り込むことができる。 ②それぞれのシーンにあった曲の構成や変化を生かして表現することができる。 ③曲の構成やアンサンブルの形にあった音の重なりバランスや、音色を意識して表現できる。

#### 4 題材の指導計画

学習内容と 指導目標	観 点			評 価 規 準
	関	感	技	
原曲の旋律と それにふさわ しい歌い方 (1/3)	○			原曲の旋律をレガートで歌う事ができる
		◎		前半4小節と後半4小節の違いを理解し、曲の山場を意識して歌う事ができる
			◎	後半のブレスに感動の気持ちを込めて歌う事ができる
編曲版の旋律 とアンサンブ ルの仕組み (2/3)	◎			アレンジによる構成やそれぞれの場面でのアンサンブル及び伴奏の形を味わって聴くことができる
		○		それぞれのパートの旋律をしっかりと歌い、他のパートとの関わりを意識して演奏できる
編曲版の構成 に合わせた表 現の工夫 (本時) (3/3)	○	○		1～5番の特徴を生かした表現を考えることができる
			◎	それぞれの場面にあった音色や音の重なりを意識して表現を工夫できる
		◎	◎	全曲を通して演奏し、5番に曲の感動が集約されるよう盛り上がりを持って歌いきることができる

#### 5 本時の指導

##### (1) 本時の目標

ア、曲の構成に合わせた、それぞれの場面にあった音色、音の重なりバランス、ブレスの取り方を意識して、表現を工夫することができる

イ、1番～5番それぞれの場面に応じた工夫を踏まえて、5番に感動の集約や来るよう、曲の盛り上がりを感じて演奏することができる

##### (2) 指導の構想

「思考力・判断力・表現力」を育てるための言語活動のポイント

1, パートで重点的に練習する場面を確認したり、練習の課題を音楽用語であらわす 『読む』(歌詞・譜面を読み取る) 『聞く』(仲間の意見に耳を傾ける) 『話す』(音楽用語で)話す
2, 演奏後の成果を意見交換し、ふりかえりをする 『聴く』(お互いに聴きあいながら演奏する) 『話す』(音楽用語で話す) 『書く』(ふりかえりをし、音楽用語を使って書く)

##### (3) 本時の評価基準

観 点	B おおむね満足できる	努力を要する生徒への支援
関心・意欲・態度	それぞれの場面の違いにあった表現の方法を考えることができる	グループリーダーの声がけ
創意工夫	音楽を形作る諸要素について、音楽用を使って話すことができる	音楽用語の掲示
表現の技能	音色やバランスを意識して演奏できる	具体的な方法の提示

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導の留意点	評価の留意点
導入  振り 返し  10 分	1 前時の確認  2 課題の設定	①学習したことを想起して歌う  ②編曲者の思いを確認し、課題を設定する	・歌詞の世界に自然に入っているようゆったりと  ・場面に合わせた表現方法を考えることで、曲の輪郭がはっきりすることに気付かせる	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・それぞれの場面の夏の風物詩に対して、イメージを明確に持とうとしている
作者の思いや意図を感じて、それぞれの場面に合う表現を工夫しよう				
展開  見通し  課題 解決  30 分	3 学習課題達成の方法確認  4 課題の追求  5 学習課題の解決	③それぞれの場面で、どんな工夫が必要か考える ④練習の仕方を確認する  ⑤グループ練習  ⑥工夫して練習したものを持ち寄って部分的に合わせる	・「音色」「旋律の山」「ハーモニー」、「発音」、「音の重なり」などについてふれる  ・パート練習はより具体的な方法で行う  ・パート同士の関わりについてふれる  ・練習前と練習後の変化を意識できるように促す ・別なパートと部分的に合わせても良い	<b>【関心・意欲・態度】</b> ・自分の意見を持って工夫しようとしているか  <b>【創意工夫】</b> ・共通事項の中の様々な音楽的要素の中から、「発音・音色・旋律の流れ・ハーモニーバランスなどの視点を大切に、歌詞の持つメッセージを伝えるための工夫がなされているか  <b>【創意工夫】</b> ・練習前と練習後の音色や表現の違いを感じ取ることができたか
終結  10 分	6 まとめ	⑦通して合唱する  ⑧感想発表	・お互いのパートの絡み合い、バランスを意識しながら表現させる ・1～5番を通して、5番の歌詞に最大の盛り上がりがあるよう、ダイナミックに表現する	<b>【表現の技能】</b> ・練習で身につけた唱法を使って、それぞれの場面にあった表現で演奏することができたか ・それぞれの場面に合わせた工夫により、曲の構成感や輪郭を意識して表現することができたか